

近畿中央呼吸器センターに受診中の患者さんへ

臨床研究の実施に関するお知らせ

現在、近畿中央呼吸器センターでは、下記の臨床研究を実施しております。

この研究では、患者さんの日常診療で得られたデータを利用させていただきます。

研究の計画や内容などについて詳しくお知りになりたい方、ご自身のデータがこの研究で利用されることについて異議のある方、その他ご質問がある方は、以下の「問い合わせ先」へご連絡ください。

●研究課題名

気管支動脈塞栓術を実施した気管支拡張症・慢性気道感染症の非挿管喀血患者における出血側同定のための術前気管支鏡検査の有用性についての単施設後方視的検討

●研究の目的と意義

喀血患者さんにカテーテル治療（気管支動脈塞栓術）を行う場合、術前に右肺と左肺のどちらから出血しているか調べる必要があります。気管支拡張症や慢性気道感染症の喀血患者さんは多数の血管が喀血に関与していることが多く、両側の異常血管全てを同時に治療することが難しいからです。

出血側を検索するため、CT検査に加えて気管支鏡検査が行われることがありますが、その意義についてはまだ十分な知見が得られていません。特に気管支拡張症・慢性気道感染症ではご高齢・低肺機能の方も多く、気管支鏡の刺激が出血を助長し全身状態を悪化するリスクもゼロではありません。可能ならば、なるべく体に負担をかけることなく、喀血治療（気管支動脈塞栓術）を行いたいところです。そこで、気管支鏡検査がどれだけ出血部位の特定に寄与しているか検討することにしました。

●対象となる患者さん

2017年9月から2023年8月までに近畿中央呼吸器センターで気管支動脈塞栓術を受けられた、気管支拡張症・慢性気道感染症の患者さん。

●使用させていただく診療データ

- ・ 年齢、性別、背景疾患、喀血量といった患者さんの情報
- ・ CT画像所見
- ・ 気管支鏡検査所見
- ・ 気管支動脈塞栓術での治療内容、および止血率と予後

●個人情報の取り扱いと倫理的事項

本研究は、ヘルシンキ宣言に基づいた倫理原則を遵守し、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（令和4年3月10日一部改正、文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示）」及び「人を対象とする生命科学・医学系研究に関わる倫理指針ガイダンス（令和5年4月17日一部改正）」に従い実施いたします。

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。情報は研究代表者をはじめとした当院の共同研究者のみで共有します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

＊上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解頂けない場合は、以下にご連絡ください。なお、その場合においても患者さんが診療上不利益を被ることは一切ありません。なお、試験終了後のご連絡には申し訳ありませんが対応できません。

●問い合わせ先

国立病院機構 近畿中央呼吸器センター 内科

西原 昂

住所：大阪府堺市北区長曾根町 1180 電話：072-252-3021（代表）